環海異聞

拾五

No 15

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

1909407
DK
18
.087
1807
RARE
No. 15
ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

環海異聞巻之拾五

雜事

宮初漂客着せしオンテレイツケと云寄体初
くしれおしラロシイアの手に属せしハセリ
コフしと云人なり此人諸國屋ん於させきる処
なしとなりムクスクソ産れのこの也イロコーツ
カニく去ル卯の年病死六十二三と当ハ是仍て
思ふに右の寄体保せし然三拾年も前のなる屋し
此セリコフと云このハ以拾三口家分拾七ハ才是キセロ
フか父某か代こる事しの事公しあるこの也生得

上
瀬ヶ
武笠
崎

利發者よく臣におせし遂に商賈の事を
とるもキセロフ分手永オホーツカ、ミシヤーツカ
の南港仕おしの船にのりしし因もしめくオーツ
カ様見おし船ならせく家子様伺ひしに顯しく海
獸の漁獵なる場処とまた交りれハ場帆のうへ生次
第持語なるを王（カミ）にも告行しく再び發帆し其の
志聞く様なつりん手に乃がんと其地に到る此時く
諸人見到れ此永と人流と様怪しく漁獵に用る
綜牧百年擲く船へおかけたる船をとも是を
防ぐ所なあ由多怪我せし者もあ来ろひにあ
くみしにセリコフ謀略様行く漸く是様いひをとし

着岸ゆる度を得て遂に今のぬくまこ付く
収役せしむる度となさしとせば後ハ平岡分
永徳来し交易に撤ひ砂の物地なへ物高此鮭皮
物貢納せしむるに至り遂に其地に役所を建
て役人物を二ヶ年に一度八ツ交代し貿
物を送り鮭皮を受ける事となれり
故セリコフハ其物国の後右ち切こよりて王上分
侍様な職を得り家留ミ学く今のキロ
フとも肩を比ふる程の富家となりストシ
リヨンの才三なりと人こうぶ屋ミ、称せりとせ
ストシリランし百一万と云事なり然ともキロ

フハ悪顧の事なれハ同事の手をそなれば諸
国商賈ならびに右ニ諸寄へ送る交易代
物等もキセロフれともに請續ハ是ハ是
六十四年にて病死せり 夜商人中写の悪
慈ニキセロフハ勢ひ益盡すなるを其稱ニ
其大商中写を皆としハれどもセリコフ在
世の内無彼ハ手前みつくて是をそなり各
内許のことくあるしハセリコフ死去商
ハそなかる処なしとて何れも申合せ終に
キセロフをはせの中写を除ふ事也此事
後キセロフハ仕方しの私ども其先ニ

こく行遠ゐ其又近年オホツカ分水アメリ
カヘ住家をし船場帆花三年を經くも
行方知れざる等の事甚怪しき事多し
皆彼奸人ともの所爲にもやと歎ひ深く居ま
とせ
其後隣家等ナアツカ之事送つまく本国
へ帰帆をし兩家ひこ船頭もセリコフ今年之事
なりしせとイルコーツカヘ着せし比ハ已こゝり
コフ家家となりしとて遊ぶ事も得をすさ
こ其の後家に無てあひせり今日十ヶ年家有住めて遊
のこまく孫おぜくの有なしまた今無後家

となりてムスクワニ引越し居住スと故此如不
才持ちて為くの貨も大かる得ひ言せりと云
なりも能たまの印あらるく王三ようの記り
引いづれ為はなりも自由なる者の度と云也
ナアツカ其書のヲロシヤ人ニ五六十年とこゝ也る人
先年此得く始る渡り時為人なりも蒙りなる
綜痕の根なりもとくひぢをおしく見せ又セ
リコフこと六十才おし解こく死せりと云けば
為の彼此屬せしハ是より度こを知らしとそ也
カミシヤーツカ松前の事第十八月の為を
ヲロシイアノ所処となりも其為の首長をツシ

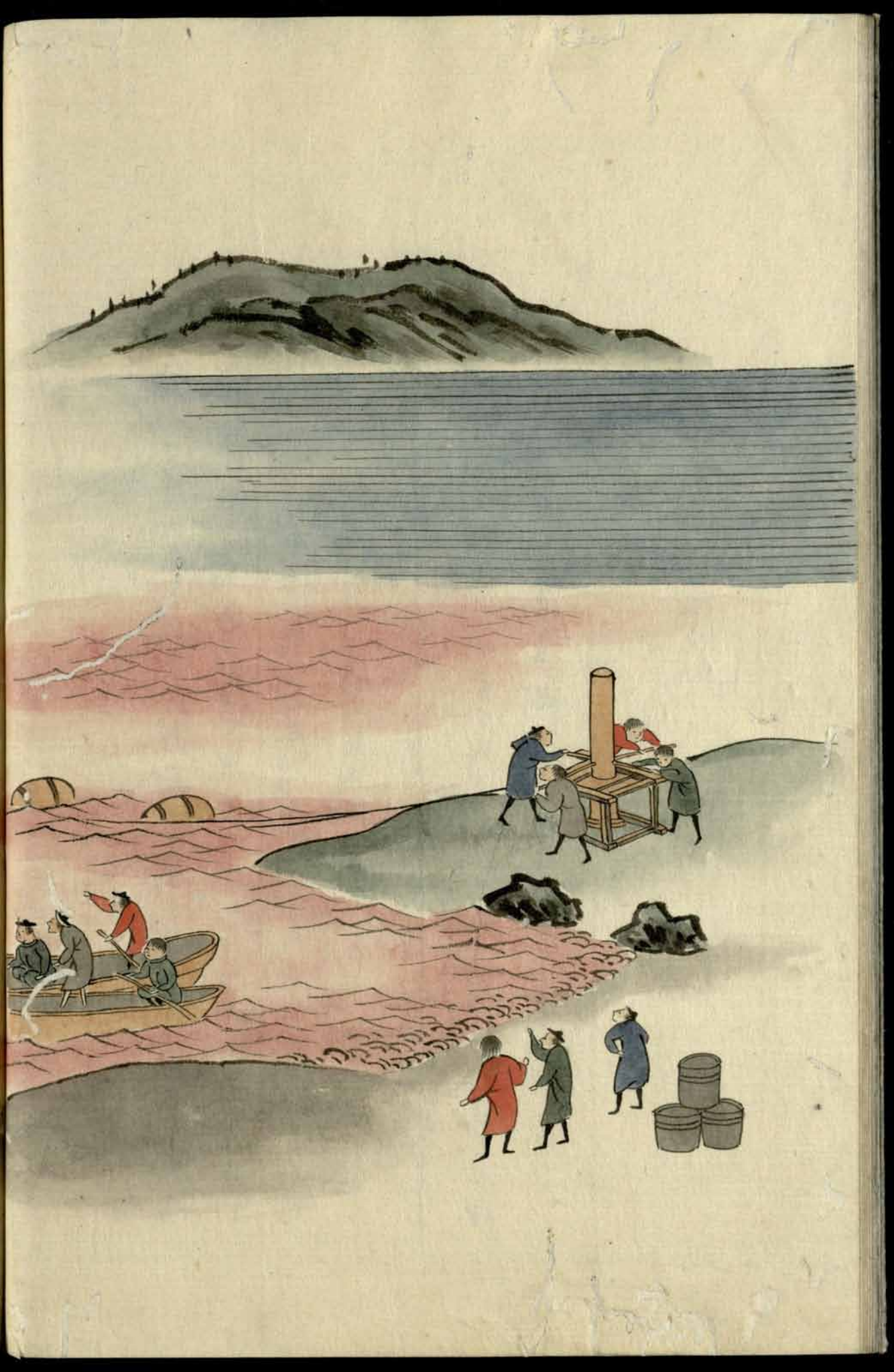
ライと云しとし此人セリコフと云る諸国故經
迎ひし人なりと云
大麦（エチタン）挽割にしてく喰ふ油（ニスラ）を加へ煮ひ
諸ふ者には食ひ何等の時多く用ひ者食ひ裸
麦（アクセメ）の蒸餅を用ひ四度目にて豊作の時無
調貨十八錢之作にて夏なりしか五拾錢か百錢を
去ル酉戌年には大ふ作なりしか五百八十錢か
三百錢迄賣買ありて小麦（セニラシ）は者四年無
五拾五錢程なるに右之年は大小麦ともに是々
準して價ふるかまし故小麦も粉にして
蒸餅に作りなと製し者には用ひ貧蕎

麦ハ極刻にしく愛る其外のこくろひかハ
其所鋪も價出し極刻茶ニ粉ニ新ニ車の
向を用ひて極ゆるなり（イルコ ツカ）とも都府へ乃
居中カラスナヤリツケの目とまるハ風雨なり
用ゆる洛傍ある処に仕かけある処しにくこかけ
なるなり
漁家とも留ニ商キセロフ許に倍宅しくあるし
内サーモーリフ湖（ハイカル）といつる大湖へ漁獵に至る度何
とも居平ニ至へこ加ひて許多里此湖の
漁場ニ至イルコーツカとも南ニ当るとく多里
程あるなり 是彼里数なり亦七百里 俗口とも云日本数にてハ
此百里にハ足らざるなり

イルコーツカミ倍ハ此湖ハ漁る奥ハ雪ニ
用ヨキセロフ大金ハ有しこそ立く他の商人
中写ともに彼湖へ網打の獵に屋ハもすると是
至る戌の年ニ夏ニ其三月なるしハ左平写と
其人数にかゝる当処ハ川船ハ人数七格人とかゝる
に船三艘漕ハ出すと（ウ船ニ向ヘ小舟をも ツミ入てしなり）南へ向ひ
六十里登る是湖ハの小ハ方にかゝる処にて
コフライと云地なる寺ハ（ニコノチチコトトナリ）ト云
此処ハ湖ハへ舟ハ入れまゝ東に向ひ山傳
へ湖畔をしに舟にしてく七百里行きアンカリ
ツケ（図ニみへるアンガラ河 南畔の湖畔なるへし）といふ処に冥（ツキ）此道程写

山こゝ悪く石山なり或ハ然り或ハ下りしん
其他鉄へこゝ其家に船を雲付きり本所を
象船しく三十一日を經く差度せり夫方場
処をえ立こく網御用に沸り留中数多所無能
を漁り獲り多り網ハ引網なり地引のぬし
百八十尋ゆ百ゆ海なり其中オヽモリと云魚
タイメンと云魚鱗しく何も皆是御浴漬樽語に
しく数百箇となり

右ハオロシイコノ本ニ於熱國全圖より寫ニ如なる此條
前後の話説と參考す度しイルクワツカと記する如イ
ルコーツカなる其傍の川より南への日を私ともし所
し郵便し正中の大湖ハ釧ハイカル一名ザーセリ
コなるムンカリト記するハ蒙古なる唐山の境の方なる
シナ川ハヤコーツカなイルコーツカへ續る長流なる度
し是彼平々此圖なおしく質す如なる



又場処なかへしを網しく オシヤラレナと云る大魚
此尾は得多里其一尾大なるものは格式通目あり是又
腹に裁却里樽に浩め塩漬に志せり南シヤライと
呼ひしく明礬に似たるものあり 拂に消石乃是にし
目は枠よあるせしく魚は漬るなり此乃大魚
は此此味調合のものなれは塩乾肉黒に透徹
らずとなり此ものにて漬多くしれは幾年を
ても腐敗する事なしとなり此処にても才、モ
り魚等も又夥し
網にいりしかとも塩と入物とに限りあれば是を
かしひ右網なる前の右塩漬の樽の窓く私

に積入物帆をしハ其六月にして本処に物着
沢
海湖畔にヘナンコスと云種族の人氣所望
少年迄加能らか住居地面を狐を鰕に音銀五十
枚又百五拾枚を運ぶとしく者しよへて網
を拾ふ事
ニコライ河源の向ふに帰る出る事此湖畔か
所を隔てあれ事の南畔迄ハ湖上六十里所
つも是を海里山越に陸行所ハモンカリツケ
蒙古の事濱地へ入るの居中なりと云然月
湖所一向に所を望はめる時ハタイスコイ漠地

よりて商物こゝ通り物の三種深里通ると云又まゝ
イルコーツカ是の川筋を物里を里つめる故物
三種往来し通路甚便利なりと云唐氣乃
節通用を角の湖辺山原種湖に甚ひ清里に
こゝ物の湖畔へ出る夏三百里をへ有く二カライ
河辺へ来る甚迂遠(ウヱン)(トヲシ)なりと云支那境へハ七百里
あると云我三百里なる居し此湖の色(イロ)赤し中
亀も物長サ彼里法にて一千里湖の大サ也物里と云
岸こ無て殊に深しと云里 図に物色を称する事赤に絶を
恒るゝなり
此湖畔の上ノ手ウヱリホノアンカリツケと云地
の辺まかるゝに住む夷族ハ則トンゴスなり

此ものどもこゝかゝる家居なく時々処々に居処
地稱は其家作りともいふ屋に木抄を立ならべ
外方楼の皮地引也し囲ひとせ一敬乃
正中に横に木を架し自在と云居に掛
下げ鍋を居るし社地設る掛地煮く謂ふて
食物は多軟黒蛇得るに任せ時々除えて無火
食物得ずと云麻の乳汁を飲む夏他乃
年殆を用るかぬし且麻をあらし仕る夏
寒のぬくのもりに又掛をも殆は此族射る夏
は重く物を得ずも無く木をく作りも出天
五六寸為諸国の射手といあらしこちらとく矣

を後の方へつけて対をなつなり此前の

如此族にて長サ口寸許有矢ハ多ハ三枚有る

なり者は矢の間を脊有ふくしく有り其弓

に如此作しと云ハ天之作き虚空に対を称す

有る矢に踊分又能をなしくあ屋間有ば対こ

こゝ下る箭なをなしともあ屋間たゞ是左平

ハ間をしくなて目を驚ろきりしボク韶無

止白里地方の名産之弟を此辺接ぎの玉上好之

二和之後にて詔七十枚目ばかり 南湖の通り無し峨々為る霊山

なりこゝ宮深に比いしボクこゝ処に出つトニコス

是をなす間しくなし対当をいふオロシイア

の所地となりし後年々此度を貢ひ依て此貢
成立の為め且土地の名志満里よアンガリツケよは
オロシイアが後人二三人を勤すとなり
トンコスハ異教の仏像を崇奉ひ等候ゝ作
新里又假面に作里ゝ両つ里ゝ無なりアンカリ
ツケよ渡治河里ニ於仏像并ニ多数に相成作
るなりも
トンコス等々衣服ハイルコーツカゝく買ひ求
め後裳并ニ注紗等の服を兼用ひ男めとも時
ニイルコーツカへ是を調ふ為に往来ス
漁獵のつるミなくアンカリツケよ小屋を打居住せ

門無トンコス等司三格人も来りて右に属いるゆく
家和化りて住りて是無事なるのく漁りし魚
ろんをまひけんとしてなりて引網の手間に居と
ゑんとおもれが手間鍬をこるもりて おまへなりしば
性慨情且貪欲なるものともこの唯こむをばる
なのこいひきましとぞ
此時弓を射くゑをしに射術に至くハかんとん
をうなる事ともいるかなし
かくてこふく一五仕奉し物既をんとしる此ハ彼トン
コスとも又何事へか居住和侍をも
アンケリツケの程に何事 名字目を物にアンガウ河なるか この

川アモル呈利支那所謂と云川よ名(アヒ)しオロシア所
とケタイスコイ支那の所ならどかひを名をいへ
バイカル湖より所源なる川多し其中ヨリ五
百里ニ当ヤコーツカへなのなく川あるを又イルコー
ツカへなのなく川あるニコライハ其湖所のあるに処
なるを又トゴリツカのこなへなかなく川あると云其所
外にも川あるなし。
イルコーツカ清明中いつ比々年月ハ忘れ
日餘六分をかなりけるを土地の人ハをらす気
所ゆ役所なとこなきをかなりてしまもあるを
しかやインベラトリ帝爵帝号の国無世界の中

此ヶ処ハ是ヶ処の名を覚へ置く一ツをオロシイ
スコイ魯西亜ニテハヤツポンスコイ日本ニテハ
ケタイスコイ支那なりと云
義質按其一ツハ入尓瑪泥亜（ニルニニア）欧羅巴（コウロツパ）洲ニ係ル一大国へ
和蘭ニテハホーゴトイツレスドイツランドしと
云一名子イメツカ魯西亜ニテハ子イメツと唱へし
なり又此国都見格（ブルクエ）魯西亜ハトレツコイ（スト）ロツカ又ホト
コニスコイしと云
應帝亜（インテア）魯西亜イニセウスコイと云ハ帝号なりと
字はのも大莫臥兒（モゴール）と云皇居なりと八ヶ所なりと
是按日本ハ其域ニ比すれハ土壌
小なりといへとも

皇統一世第古不易帝爵之國號ニ志て
地の諸邦ニ優れるもの外域のむ等皇異
彼得(スル)処初なるも往年主ありし伊勢先太夫
并ニ漂流ありし彼國の人ニ居ニ云半里を出
地ハ接ゆなれどもインベラトリの里なるとと
称美せしと望ルなり
先年先太夫出帰後送し松前ニ来りし
アダムキロイチフツクスマニハ先年ベトルフルカニ而
病死せりと云其父モリロイチハ去巳年都ガ
ベトルフルカの物送トボリツカと云処ニ病死せ
りと此人種々の異物を申ぢしにしく

二十一騎しく行へ重ねと一体学者なるを
嘗あら我学ひなれ其子ラツタスマンの死去無其
後の事なるとせ
桜ニキリ也イ二ノ先太夫ハ厚く世話為ハ
人と義以里部へ公用為整ひの節同
居しめ帝へ為朝の頼ひをも添し
掛産を好こせるとも老業王命ハ交
しとなる先太夫ハ才ホしツカと送る
来ひし居ても採業せるとも蟲乾ハあ
つめしのこ学来ひし無宁云こて実
ハ掛産かといふ事なるへん

神と云ふの様にて清に賣ふの想しく月賣なる
何よりも一切祥よかけしあきのふなる
博賣ハ国中かゝるく法度なるまゝなくし戯し
様にて名なるを谷様カルタと云札数三拾六枚あるを男め
の賣形あるをカルタイケライといへるはかゝるくて
と云夏なるを月本とあるカルタハ物帆の時南蛮
利加ゝしボルトカリ人の珍しき様にて其ハ全く
神国にあるくるのと同し
按ニボロトカリハホルテユカル 彼尓牡瓦ホ様 国ニ云ホルトカル
又云く南蛮なるを
きと云
利 神 蘇 教法を弘め
来るし国の其心なる居しタル

夕と云ふ緯ハ想しく幅又因板の支

のよし欧羅巴洲中通用の緯なれど

も世今ハ諸国将試の一名となりて云

旅泊経ころへハ於蘇會士の傳へし要

之名なるや

義年等ハ人自帆の時に章を各に編じ

被時年に箇をもて皆獻ひせん度数をひ移し

しる其図ゑ度数をのしれく三箇いこなるし

[illegible] 義質 豊数 構よ 其図数これが下[illegible]

[illegible] の [illegible] と云数十字

略て何あるを失言なれバ他ハ弁じ居かしく

といへともロンドン蕃動とあるハ漢又利亜の都
府なるを北都動動製のその阿葉佗持渡るも夥し
く其全く漢又利細工とこゝへなるを
玉人路く根付時斗ハ物櫻に付く居るなるを
ゝ者ゝ自ト時刻ハ此ニ於ケ
漂人等新都の名ハヒセルホルカと云兼ゝヘトルフルカ
と学置(ヲキ)ハ押しこれハ質子に彼人ハヘトルフ
ルカと称ゆるなるをヒセルホルカハ我ゝ誰なるゝや
処なるといひ其ゝ本編ヘトルフルカと記
せるを

桜ゝ和菓ニハハヒ――トルベルグと云

ヘトルフルカの都へハ諸蕃國の人来ると居ると云其
中地名は学覚しハタルタ韃靼(タル)ケリ漠又
利亜ダンヅケ茅都瑪(テチニル)示加(カ)スウエトツケ雪(スウ)
際亜(エツンア)のゐれ凡そ七十七ヶ國の人々来ると云
つゐて旅者するものも有又永住のものも有
夏筆千と云夏は志らぬとなり又後かきつ大
低似ものなれハ志ると分つ屋根もなし
但しおりせし途中しく黒人は見かけたと
是ハ オロシイアの後は着し獨こハ相角
時斗は きげく居ると しかども西ハ黒
漆は黒ものなるべしとく手をもつ黒なり目角

て四方づ絵かく書しこ此黒人の事ハア
うツブと云由事なり也諸国皮人の位餞乃
近処にイノスクンノ。コレンケと云大役処有此処
ニ在る近間の者ども居るよしなるイノ
スクンノハ外国コレンケハ役処とも云事と事也
外人の応合住の事ハ何事も此役所ト云斗
よし事なり

按ニ黒人ハ南あめりかの人なじんかアラ
ツフといひしハ地名か其種族の名詳
かなる事ハ得ず

諸国分侍節 ホスラニシカ といふ 来る居るよし云こ

何ニ子細ニて来ルや志らず何れも猿男様ハ
ましりユマンツフカラと云王相の娘ニインハン伊イ
斯把尓亜の王ヨラコロリと云かゝ任意なるといへる
者とふるしせしがゝへさるを家ハ外王の使
志なるといへるか格五六人ゑへたり其王ニ乃
名ハ望も留ず
上皮ニ人ニハ王言を得ハ何ハ多くハ子イメツ
の辞をきひ覚ゆれバ見ヨシ諸王ニ人ニ
通弁ハ有なるとぞ但し王王の前ニ
ハラロシイア辞ハきふるへ毎ガランツケ無ニ
阿葉佗へ子イメツとガランツケとの詞ハ此

遠ひなりと云

樓ニ子イメツハ入尓蹲尓海亜なり和蒙
ニてホーコトイツ則ガランツケの家国
なり和蒙語ハホーコトイツ分獨
来る由なれば有もある事し

漢名ニ子イメツハヲロシイア服ゟの地ニて旧
朝の水辺の国ニやと以元へ来朝ハ其地の処王を志ふ

樓ニ子イメツハオロシイアゟゼルーニエア様称し
て呼ふ子イメツ分婚嫁ニしていへて是日族にしてく又帝号の国なれハ爲登魯西
亜國志説説曰ムスクワ京城の郭外入尓蹲
海亜國久処居の府アリ造営美麗にして

人居稠密ニ至是地名ケテスロクウテタイニセム
スカ」ニテメツカ」と号ハと云云濡筋ホハ老夏を
皆得て本地と思ひしあり居しけ分し子
イメツ無ニ則老ニ一メツカ有事ニ頼ひ有し
セルニニアの一名ニユーメツと称ハ夏ニ牛地流
ともなるスウヱイツケ雪陰亜と云国土地乃
宮ニ処ハ皆オロシイアカ攻メ五里しとく今
の新都ヘトルフルカハスウヱイカケの厚地ニと
皆ルリ五里のこをれて自立セるスウヱイツケ
無今ハヲロシイアカ給ハ来ハ遅ハ老ニと云噂
有ルリ

先年光太夫等ゟ送り来りし時献上物乃
御報礼ニ新古の太刀を以て差遣されしと云是
ゟ彼ゟ日本の形勢を探索し国王乃
一とおし斎里イルコーツカゟ此学問盛なり
漂流日オロシイアにて諳蒙他ゟカランシツケと唱
ぶ又新和蘭ゟイーイローランセと云彼国板の
地図中ニ有る太十郎持ひ来りし世界全図
并小冊中ゟみゆる和蘭十(ユ)○(ル)九(ラ)氵(ン)工(ト)山
新和蘭工(ハ)○(ウ)ㄖ丄○と(ウ)り(ン)乚(ニ)工乚(ヤ)十上イア 是ヲロシイ文字なる
オロシヤア読あり

「魯西亜ニテ「ガ」と云尼(キ)勒(リ)祭(シ)亜(ア)「ガムヤ

しと云フ和蒙ニ於テ厄勒祭亜字ハ註ニ於テ
書ニ山帰和蘭ノ凡ゲゴガナリと云ヘ其理因て
思ふに和蒙の事ハガランツケと称ハと云ふ
ハ「ガ」「ゴ」一声の轉なるべし
胸帆の節大洋中にて二三世界のたい中へ
来れるとき祝ひをなし外夫ともへ酒なと飲ひ
又志げしく和なり数百里迄ともに家も酒ん
中へ知れるとき同しく祝ひし事再迄ニ及
へり其処ハアクツトルといひし鉢の外暑ま処ハ
ともに
梅ニアクツトルハ一座自名和蒙ニハミツテルシ

井ンと云ハ中線則赤居也世界ハ関ハるを初
回魯西弗利加海ニ向ふる赤居赤下の海之
ニ向たる赤居赤下なるを是実ニ一大奇変と
いふへし欧羅巴海の人世界ハ航海ハる
其居とハる処といへとも一回ハ赤道下を通
永ハ居し赤回ハ乃へるハ居のハる居を変
あらハ

魯西亜人も此度ニ船路をしめての通りこと是
此度ニ船人等新都の川口ハ出し カナスタヘ出
大船ものを組ニオ、ストゼイ」と呼る海ハ蒙帆
しかンカリ 諳(イ)居里(キ)亜(リア)へ船を着せまる

南へ向ひ加那利亜嵩亜弗利加海へ立り変
をおくしゝ赤道を下を経南亜墨
利加へ向ひブラシリイヱカテリナへ船ゆらせ牧
月遥留まゝ同海の出先ヒエールランド」と云処の
御を迫りも此海を左にしゝ海海し再び赤道下
におつ是ゟ遥の洋中マルケイス島に船ゆ泊の所
を加ふカナスタゟ是を彼星牧格六千里 桜、我里
法口千三百七十里唐里三六八也と云又小亜墨
利加をたゞかに右にしゝまゝハ東水へのも出し亜
細亜海の東水隅カミシアーツカの湊へ着し
又南へ向ひ日本東南の方の沖にあなる海上ゆ五十

通りて我西國九州の辺隅長崎へ到りしなり大
下に大洲の方を洋なりとて経歴やりと云通
和漢出今未曾有の事なり是に比に屋よりの何
ゝ事しきへ彼人と未来此度の大経歴前後初く
なりと雪也れとも船海を居とせしの俗尚已に諸船を
日本の西小海を通り帳夷諸寄を右に見過さらび
カミシヤーツカへ到り我国の隣海一周し又
再び日本の東面の沖を通りて支那の南海
を海り廣東の港に船をらせ印度百亦西亜
蠟比亜海を通り通り西弗利加洲の南辺を通り
て三度赤道を下を通りけりきしめの海路

故とすべし西北に向ひ本国へ帰るしの大量なれ
バ尊て尊異とするも足る事しきり但し我東方
諸国乃人にあるとては開羅三千年三下俯横な
き処の壹大奇度之是唐山天竺といへども国分
未タ尊てなき所なる事し 嘗稱奇 集成 其の記
路家代未学の度之従来我日本私学題にあ
らしくなる地方乃諸書に記のもとしきは其大事
方安南天竺方角の諸地へ漂着せしものは是と兼
図なる故志しらば其中天竺の比伊せ先生等是
北海の原を穆へ漂着し東方魯西亜の内地へ
入る其本国欧邏巴洲の都府と主ると数年故

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

偏く内朝もしハ未だ彼の新熟ならざりしより是ぞ内
さればこそ原海地図も変しくオホツカ港に松前へ内若
きしありける仙台の瀛寰ハ亜細亜洲に欧羅
巴洲の都下にいまぞ其湊に発帆しく亜弗利加
洲亜墨利加洲等の任大洲を周りしく幾
萬里の海路を渉りて内朝もしハ漢土日本ハ
亜か東方亜細亜洲方の天下古今三下未曾
有の一大珍事ハ言語なりへし是等の形ちを示
為させへし史の発明仕掛けの機器の発明の様
前にあたる眼の前に手紙読みし通りし者あり是を云へハ
条に徳くしちえ発明上の人数なり小国の後絶を将

をくし立内發火ハ該鉋へ移すくしまゝ發見ゆるを
あるをも又平盤の上に紙細工の人形を云せ並右仕懸
の所ゆ也せバ其人形起ゑく踊る名ハ何といひていか
なる仕置のものや奇妙の窓なるを思ひまり
按に和葉持家ものの機器エリキレルテイーしに
しく是俗写にエレキニアルと呼ぶものなるべし
人形に該鉋をかせまるハ新器とすへきまり
公辺呈書の中に載ける敵之物何所も異度陣器
の品に之一旬年以来製造とまかるを漸く有帆前に
出来とまるなるし一生中大鏡印牧ハ至て長大
の物之長四寸許横を丈五尺程厚四寸五分ほ

裏ハ板張縁ハ金原ニ唐草模ニ物形ニしてあり
此條硝子鏡大小ニ十餘あり ムラ〳〵と云白石
ハ板又鑑のごとくきれ多る物是献之物の基ニ而
用る根子なり又此石ニとく歴代の法王の像
を彫ニ刻せるものもあり
按ニムラ〳〵ハ和葉ニ云マルメルステイン
にしく我朝後白雪の白石とるべし
と学也白瑪瑙の属なり
織物の巻物も数箇あり セイウチの牙を二人
分ニ人位の物格子六本もあり其外種々の物
数多あり其中ハ大便献之多面の物の三横て

来れ其後は船中要用に具のミ交易
にて物のものとては一切なしとなく空乱
漂着の当時初としてオロシイア内地へ入る
内地をの事諸国の人数を交互出会もしく
容貌言語も各々異来る者其数を挙れば
左の如し

アリオウトウ　初め漂着せしオンテレイツケ諸島夷族
想名なり先方文ハアンオーツカと云

オホーツカ　本国の地方へ初めて着船せし港なり

カミシヤータ　カムシヤーツカ人と云なり

ヤコーニア　ヤコーツカを倍の諸地に譚る船の
人をもしく云

フラーツケ　イルコーツカ在土無の人ゐれ地名

トンゴス　ハイカル湖辺の人ゐ

タルタ　韃(タ)而(ル)靼(タ)

ケタイツケ　唐(カラ)山

チワシヤ　イルコーツカ方新都是の半分ゐ
之と云処の地名

カメイカ　ムスクワ小辺の人

アラツブ　黒(クロニホ)人アメリカ人ゐる事

カルラ　小人ゐ江人ゐ可事

抽ニサミイテンと云地方緩小のこと今ヲロシイア形と云
事しと掌ゐれハ其土人ゐるゝやイルコーツカ
を一円新都嘗ニカルラト云小人ゐと云ゐ
こと掌ゐり新ゝ侍郎レサハツトの方へ仰新も略ゐ行ゐ事

いとまこひに来りしなり人の門は小人を伴ひ来れるゝ[illegible]れかく
ミせられ見送りの人とカナスタの船へもつれ来りしに
再ミミせられと世界中に小人国ありといふは昔方和漢の
口碑にあるなるれども未だ実否詳しらず和葉出ニミサモイヅン
の地人小人ニて説あり[illegible]日本の人目乃あ
るなりしめく邂逅せしは是又一奇なり

スウヱーツケ　雪際亜（スウマウシア）
アンゲツコイ　漢又利亜
ハランソースケ　拂郎察（フランス）
タンツケ　茅那隅亦加（デナマルカ）
インツケ　伊斯把倚亜（イスバニア）
ボルトカリ　波尓牡瓦呪（ホルトカル）
カナリツケ　加那里亜（カナリア）　イスバニヤ人住居しく此地と
なれとも

ヱカテリナ　南亜墨利加伯西兒の内

コルケイス　アメリカ刀孤島

サンベイツケ　同右国嵩小アメリカに属する所し

右四十国頼小亜墨利加洲（豪和漂荒のオンテレイツケ 諸嵩ハ小アメリカ洲に属ス）

と云亜細亜洲欧羅巴洲亜邦利加洲南亜墨利

加洲西方の人品をもて新新を比るに原来をもて異

事なり魯西亜の人数ハ何新もおこるく髪薄赤

く眼新ハきめ色なり二地の人このやうさいくはし

くそと色だ止白里（加山より東小カミシヤーツカー）と

（和想稀に大洲亜細亜に係る）

の人数ハお経く髪黒く眼も黒し傘を

八平骨にて絹帛にしてそる三人をかつ用ゆる人

ハ雨天の時ハハシロツバ帽笠と羅沙の合羽を用ゆ
羅沙ハ能く雨を不ぐ事のなり者ニ論ハ引立て
和ノ事を能々為ゆるく物にかけて不し意を之
檣を本しく櫨とく押船ハ日本をかなとて之ハ日
本漂流人ハ頭分イルコーツカヘ迯ひ来ると又使ひ
役人某ハ オレキサンダラと云しと笑ゆ なハボボコーチクと笑りり 皮袋を襟ニかけ
て往来せり其帯刀上ニハ双鞍ゆの玉號を付
るものへ歌路の濫札なと云ものゝ又黒帯な
といふべき物也居中驛ニとく人是を見て甚
畏敬し何度も御々遠流にる度もなし
是ハメツタリし前ニ見ゆるハ又説の遠ひしものや

粘の用とするものハ獨(ニカハ)のめよこのなり臭よりと
とると云阿と屋ふ云臭の頭中に裕ぎるものあり是を貴(こ)いせく用由紙其外のものを揷(ツキ)
しに皆是を つかふ能く粘着するなり也簡(カン)
の封しめハ赤色ニ而小キ棒のめく作りなる
物を蝙蝠の皆こくあぶり溶しく然り付
其上ニ市を押なり
按ニ是和葉ニ而フリしヒラツカと云ものと見而出
白臘と松脂と合し黄目ニ而色を付しものなし
革(ツクリカハ)にハ羊バラシ綿羊ヤコニ野牛コシヨウ
の三ツ所にて作るコジヨウ多而ありし庸皮ハ下皮

の物品ハ濂よしあめし皮ニハ製し難し
日本ニ而無ハルシヤ皮と呼ものハヤマニと見而此者
流漂等持渡事し皮蒲團皮枕ハヤマニの皮なり
朝府ニ〳〵限五枚ニ求来候事
去辰年彼暦数二千七百八十五年と云此め
帝エカテリナ崩ず是ゴソクリベンスクウ
エリと云し是ハ一ツ下様以過ち来多と云度
と楚コソクリハ崇め称する度と云辞ヘレスク
ウエリハ帝王死去ニ限候事云辞ニ而老人ニハいそ
ぼとなり
按ニ前御とも云度なる歟し
凡彩婚娶婦床入となり其姉妹の同國房

の外に何ふ所にしく其新婦已ゝ編半をかし
く外にある物に後に其考是を見て生下と
す屋き物あれば是を生物の日里方へ送る里方
にハ是を大ひ〻悦ふ甥も礼に行く南親双ひ迎ふ
壻其南是へ於をつけて礼をなし又立て南親
の口と己ゝ口を合ひ是度式なりと云ふ又下も
なりれハ礼にハ固分切度なく壻ハ甚ふ快新
婦の南親ハ村の外氣ゝ毒かるといふ是新義
の話也

問新婚の婦年の長幼の孫なくかく其
夫の度ふ寓なりと云ふれハ

昔彼人熱而目牟なとも生ひ立のかゝれ
る度多くれハ神縁の者ハ何つともかくあ
る度ゝやと云年度未タ信しかゝ事し按こ
牟朝古礼の臙脂を其襯衣こつけし数
ましく年もつけても神縁ハ祝ひる乃
こゝ訓ゝや

オロシイア牟圓燒なりと云漱戸ハ数外面ニ金
を属きつけ玉くつくりなる物枝種ユニシソフカラ
フの家ゝくつくりなりとも
家とするとは罩丸を云ふる人家の丸を云ふ物ハ
らに先其後を竪にたちてなり千疋ハ塩ハ手ハ

こつくビイとをぢさかしこ生底へ陸地押込こ
也こ弱ち居るなるも丸を云ゆ生底をばかくのぬ
くはれば同らくつく脂も能かゝると云
拂こ食料にはゝるゝの故肥大なるしむる
為なるへし阿葉陀にては食料の為と
商ふ牛分罩丸をいふへ此キンキリ牛を
はオスと名け商牛はクーヘースト云
雑(ニハトリ)分も居るなるとも云こ脂らくかゝる肥
大なるしむる為へと望りり和葉こく家
らしとる夏ハ未ク望ば本領の海辺諸地
つるなきにてハ犬なるしきつとなり

此丈も又睾丸を云ると云

馬は使馬は恐く玉泉とならば睾丸を去り兩年
月もをくなるをぬけ此れはかんつらく意見しく学
臥だとなる但又馬に限るは此度々及ぶ故諸々
作ひ馬を一生腰に繞ひ下しかるしく持宝の名
をあり睾丸は人間も持戒の僧又音曲家など無
を去ると云先年光太夫物語ありて

按々睾丸を抜き去れは男めの情急なるつ
是に同腰肥瘦なるとなる其鉦の祥
かなる度は家にこそしし恐

一段はをく脈ひやすらものとしてへいか根に撓めても

又えのめく伸ひくこ虫こなる也因前ハなくて
先キの分説利なるもの人実を遠きもの用をな
ほしものゝや
人ニ正月と年の改まるを時正月くゝか年を重
祝し時といふ諸ニ誕辰にあまるし其明ニ日
分一ツ窺増しく其年齢を称するを此時
年を重る日とく各生れ日を祝しくめ此為
とへは廿才の人二月四日の生れなれハ二月四日をとく
廿年にあるを五日分ハ廿年と一日といひ三月六日ニ
正月ハ廿年と一ヶ月二日と云也夫故死去しく
享年を俾ニ彫を得るにハ四十五年幾ヶ月

菓日半なとも出ゆるなり

按ニ是凡其改遊巴(ヨウロツパ)洲の風俗とも由洋中にて死去し者後悔ニ寺ニ葬埋也

甲必丹シユールカーブレの得面ハ見しに享年菓月幾日と記せり毎生辰を祝ふハ和漢たゞ所来りし事なれとも其日ハ欲しく餘ひ故宣ふ時とハ定めし冬の十月に全れし聖正月ハ沙才なりといふ也

鳥の後ゝといふ事もあり鳥ハ何鳥ゝ志ゝ候ニ

夜ニハ不後ゝ候

板猪子を切るにハ水晶の如き玉石にて筋ハ

付無多者却るなり石ふ光

拙ゝ我国にて云キヤーシカ正名ハジヤーシト云之

大光曰オロシイアにてギヤーシ様ビリアシト云なし

ツシカと云病彼地方に多く土地沍寒なるゆゑ病

とする由是に煙草様吃する者ハ此病を防くと云ふ

傳ふ此病一体甚変寒氣に所生る分起る病なり

と云 煙草寒温氣をきくる性功あるゆゑ病を発し 其症先ッ初發を銀関黒

色と云 軀骸手足節狩をはつめ関使くなりて色

黒様常ひ紫ゝなり動化はなる体ハ甚苦難さて

牽急様なれ処多く膝膕なり

漂客津太史も漂客前沖合にて此病様変立ハ

是ニ依テ一身の輕動なれ度能ハ御ニ人
の肩にすがりて二便をへ便し多き遁ニ傳ハ志
せれども於今是紀二年急し歩行ふ自由久世
ハ得ならず然るを同船の内此病に罹し者ありも三人
を御ひきオホーツカ辺ニてハ嚴寒の時苦ハ無ニ
此病苦の者多くヤコーテブラーツケ等此病を
祈ふる者をしてかけ居ニ煙草をかゝ食ふて防ぎ
こやと人ニいへ三人も甚是我忍ニ病患な
ものとハ此人業齦腫病ゆるものあれバツニ
カニくハなしやはいふ人ニ多時も云ける
事あり

按ニ此病和藥ニ云シケウルホイリしと云
病ハ二十書処我此ツンカの症と符合ハ
是一医宗金温乃云ヨおハ処の音腿ニ牙痛
なり

イルコーツカヨ遊楽処となハ涵楼ハ是ハクラ
ビセライ」と名ゆく

大光曰料理茶屋ハカランシヤウと云式ハ
是ハいくるヨ是ありハ屋といへり

年代当ハ未来あるべく能程大家也涵の影も
瞳ニ見ニ好と称ハるものハアメリカハランソー
スケノ等分来るものなく物品ハ想しく

葡萄酒ハ名酒あり此中ニハ臺實なる麸

具なる設ふけあるなるを此實玉の麸をべレヤロと

云 桜と和蘭とハヒルヤールと云器械の 部に詳なり 爲人も此器との

仕立く酒家ハ儲しくたまひ孔極ヽ敢下地のたる

ハ他ヶ條ニ明なるを具ハ家し給ニ玉實乃

備ある所しヽ此ある所しヽ爲しむ

得めもあれども生く所ニおいく好せ所の

ゐるし唯勝手えなく店仕上るる人ヘかけ

なるを又歴ニ喫煙草刻拵種なる白土ニく

製しせさるのゐ止まる煙管なる 和蘭ニ用ゐる 如と同様とえ

も 是ニケタイツケタハユを盛てくのなし

む一服の價調補ふ故なり其後に行く時に三等
の人も来る事のしむ家にあるべく家にて多く
の材を費し御ねこハ其産とはしく窮厄なる
族もかなかしたとなり
佞節レサノツト官職品彼の訳あしかるに聞
按に阿葉佗人訳文和解書にこへしルカ
しムルと云皇後の者なりと見へかたり
職ハ外皮こく内皮を兼る者なり
外皮こく為王の身に近くもある後身のよし
守りし此人の身某ハマヨルと云皮にて左鄭なる
よし

レサムットの妻ハ前にいつるイルコーツカに相し豪
商セリコウの娘なるを縁談ありて七十里の所中
イルコーツカに下りて婚姻を想し由に先妻此度
お帆し前年戊の年なるべし頃にて病死せりと云
実年彼国年曆一千八百三年外国へ使者
立てしハ此年始めなりと承りし
按に帝王となりて二年間と云度か又仕立私
にて海上大自ありし日本人の使者おせし
度のもしめなりと云度や前代唐山小原
等へ使者往来なりしかりと望まれぞなり
日本人ハ手堅く唐人ハ虚飾（カザリ）多く実

かし登人ハ水沙穢を交易物に後ハ其内に
未作なと乃れをスある事しを仕形なるなと
嘗しかるを本国今時にいたりてハ世界中
あ内稀く通路せざる国なし但し近国にて諸
日本ばかりを是を表立通用なしと人々毎度
嘗ありしは学ひなり
カランツケ阿葉臣 近年国中祇れ国王も
こ称されて今時ハ国王なし魯西亜軍兵を
もし是は平均し国界に蜀兵は意と云なり
ハテンソリースケも同横那里と云船中に
ても徒役人かくと相徳れ里

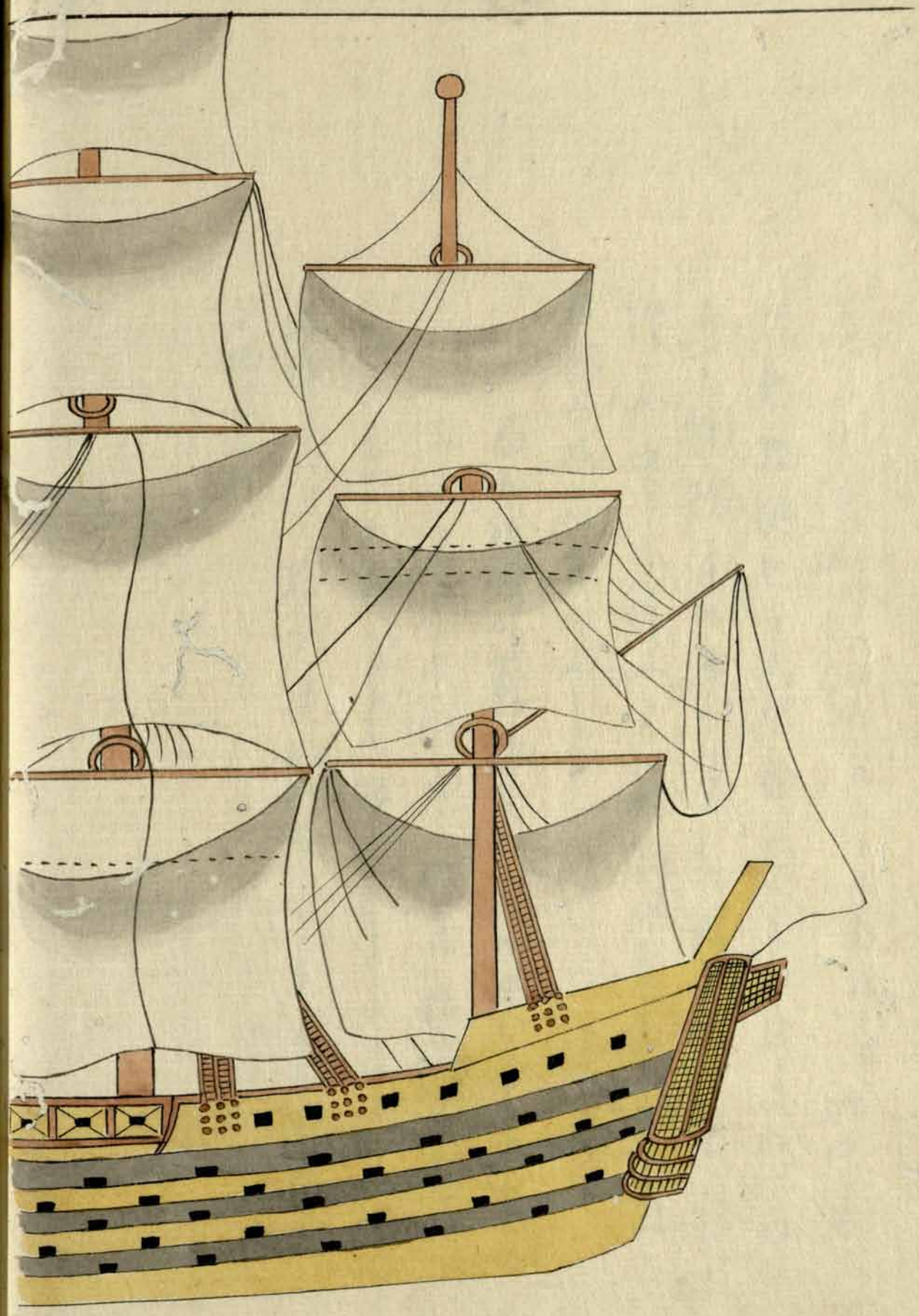
按、近年戦争れ續し風説書年
ニ入れ候しか王を出訴せしと云事いかなや
又王事アンゲランドへ逃げのひ居れるも
ともいふ丑寅年王来の風説云上
書ニ当節平生筋断し穏かに来
りしと記せり右ともに実否なし
かれ

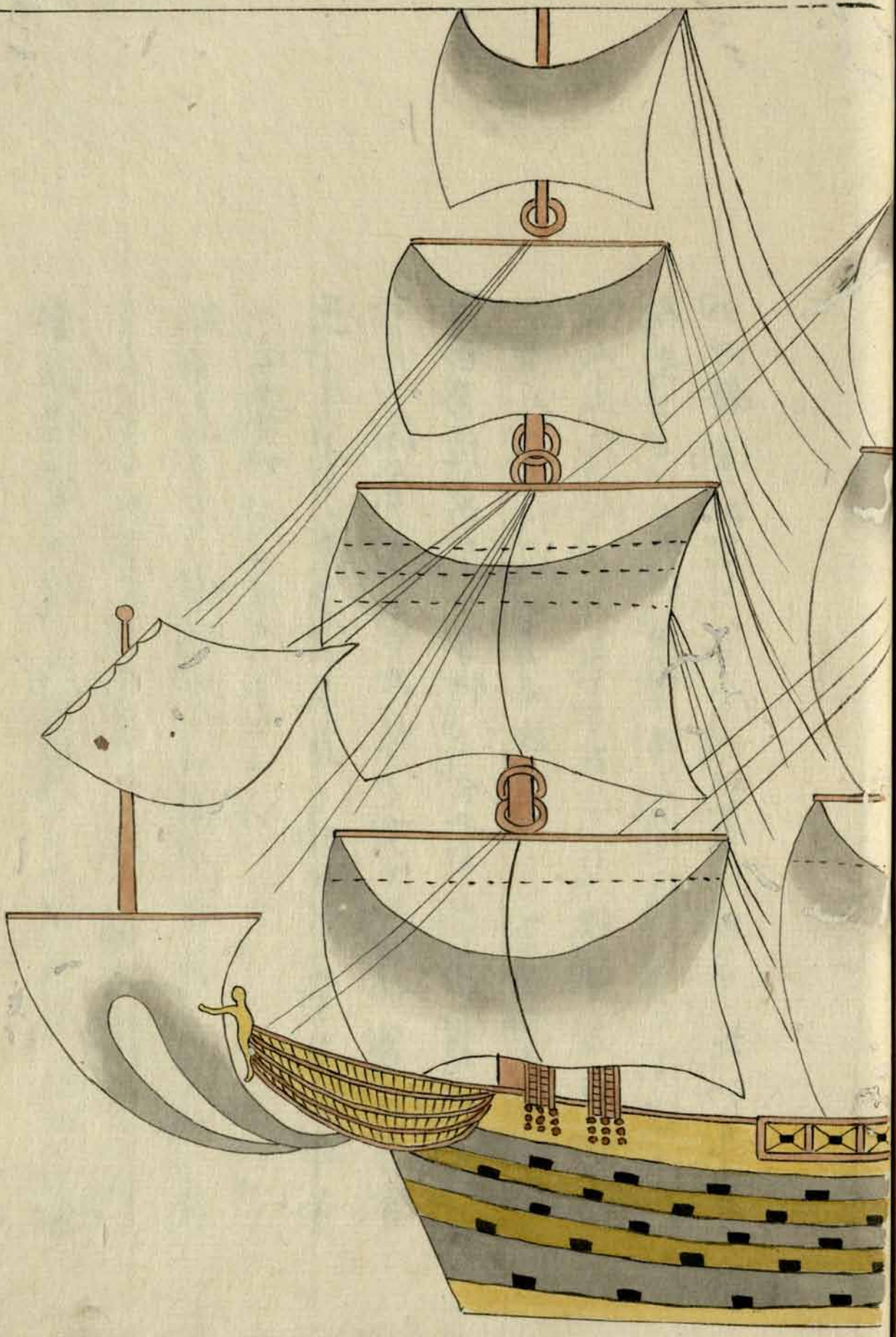
平生分訪之物阿蘭陀に詫し先年分為
反を送進し多くも是なし毎度をし出せし
と傳達せり今度に来り聞尋ねれば一向其
訴法ハ一ツとの噂なり長詠くしたひに接立

云へる貨物ハ賣りたひしたる所ゐ甚ゐ便なる
諸方とやせしめて

按ニ此度も又実度ヶ崖浪ヶ糸原かしだ
ヘトルフルカ遊覧中一艘有りユニシリウカラ迄の
廻処にして七百人余の軍船の新造ありて陸大等
引してをりしより長崎へ送完写ニてるを答庭
分八九百も有るもみな屁し同の方角て松の屑板
にして其表を又松板にしてなてこニへあるハ
強望も有る人通て網にしてあれて是蝦の邊を
思ひとして帆柱も松の木を用ひ三本往ヶ答
石本三往來図へハ淺をなして大ヶにて有る

屋し去り玉中松ゟおちゆなを石舟橋之事松中石
次矢数挺をしたゝけ並船へ上下ゆるハ傳ゟ船
なを網階子なかるなを去船ハ二三年ゟ
程舟中へ終ニ寄蒸餅のよし去人前一
目百万松文宛のよし
百万松文の蒸餅去人前の時をも十ゟ
なることのよし此面ニ佐倉船ニ終ニ蒸餅
もこの割ニて配下せり
船中ニて右新造船の図しよへし者ハ下
ニ掛写ス





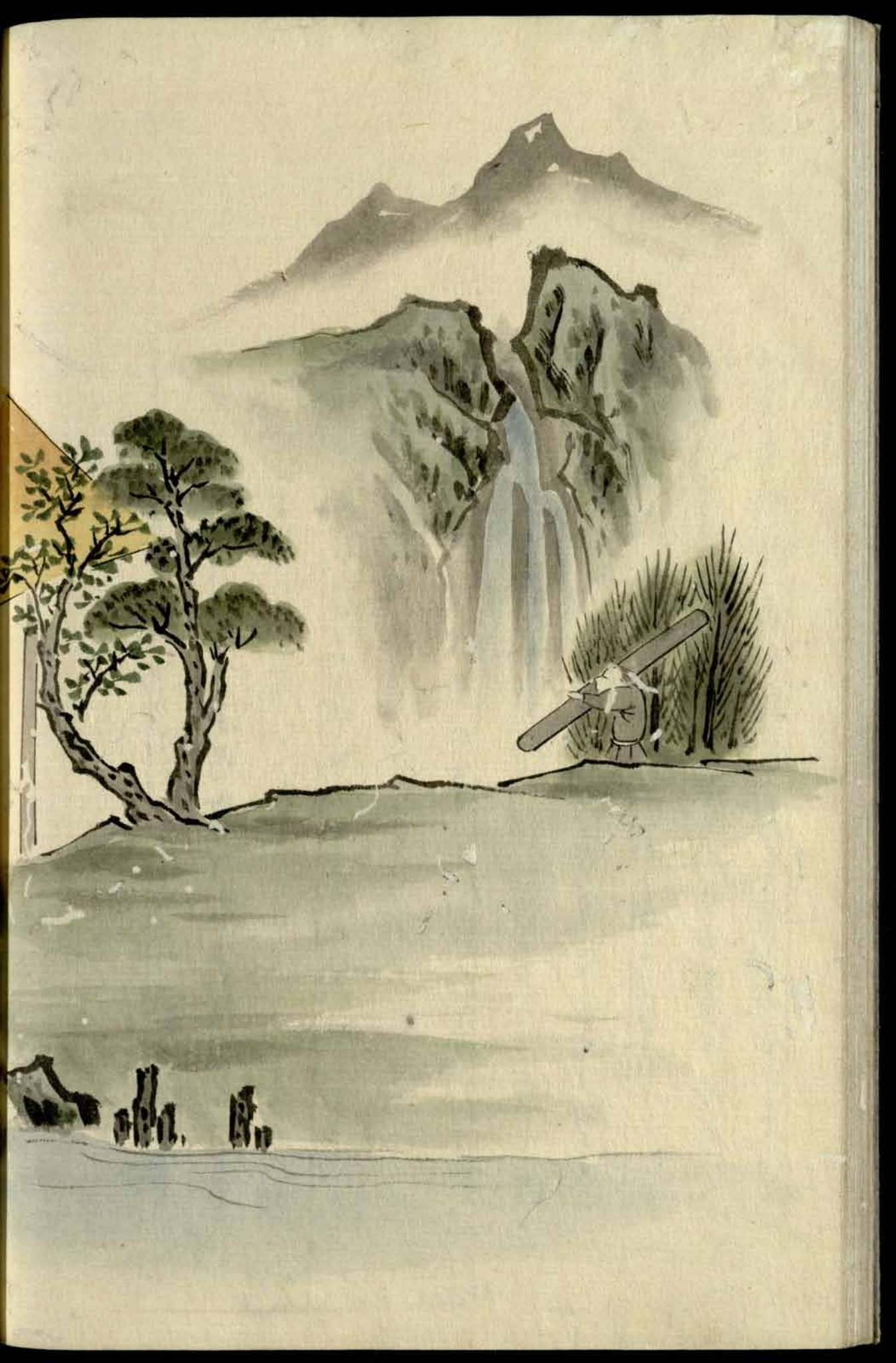
金銀借貸の證文は認る事紙あるを玉号双鷲
の黒印あるを是は買求めし證文は忘れむこ
れをもつて各約定は遠く返済せざる時は上訴
の上裁料は蒙るとき
然しく本人は其年限の定めなるを人物に等
しく給金し多少大極を望せしは當次日本
の百両位にあるを手代 日 廿五両分二拾七両三分位にあ
るを人主請人 下 男同七両 初分拾両位を下め 日 五両位にあ
る人主請人口入なともあるを證文を作る証あるを
人夫一日に雇代日本の其分位にあるを中人
同 拾匁位にあるを下人 日 初条位にあるを此初下等

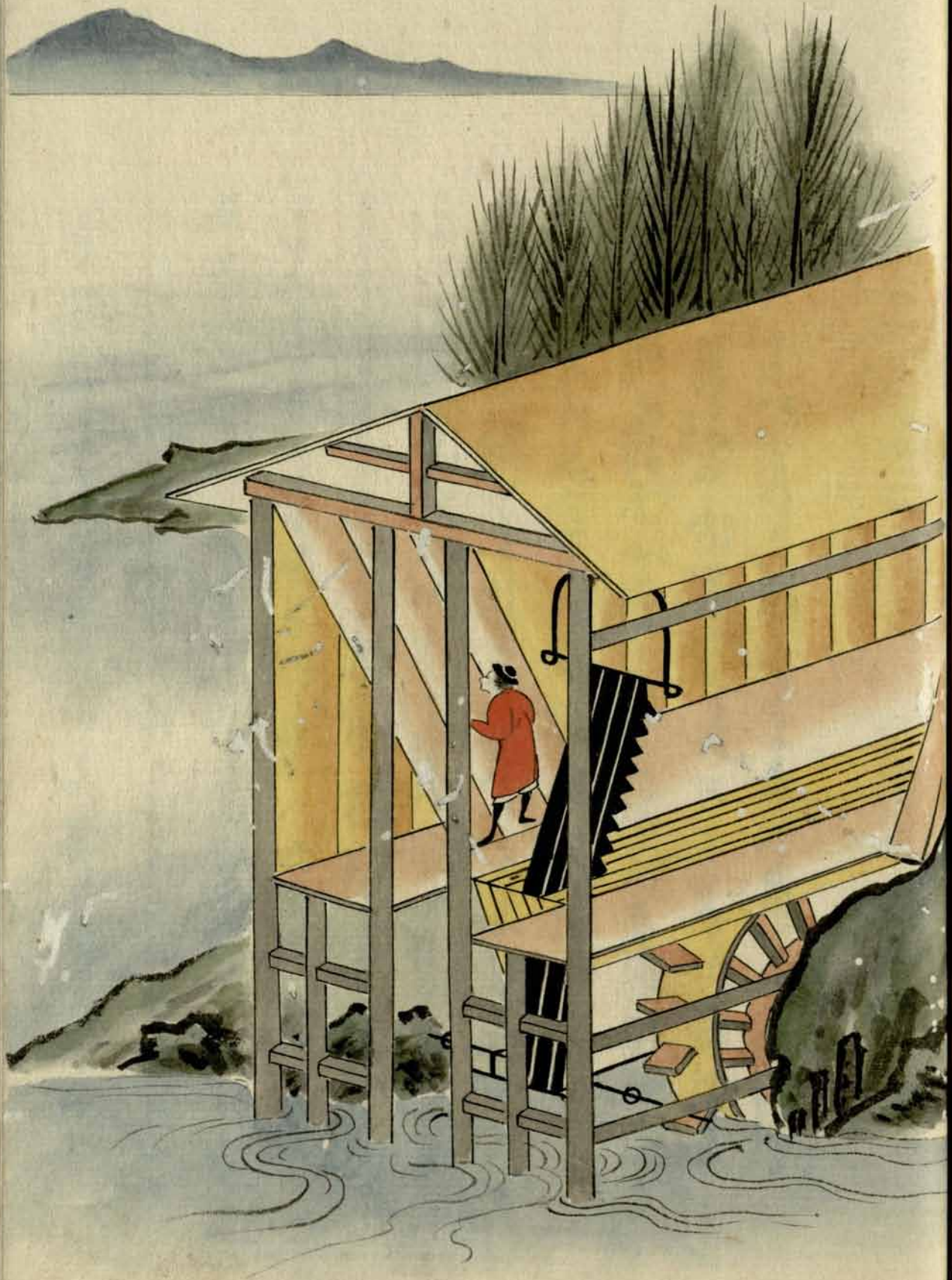
四五氣位にあたる程の手写代為あり
高商キセロフカ水車場処にして多くハ麦のこ
ぬ挽ける処あり其中ニ近来此地にてそしめて
出来たるとて多車の激勢にて大杉木ぬ板に挽
せる処あり厰(ニヤ)の内へ大据之十餘て其蓋等の
処へ大杉木の小口ぬのぢかせ重くに多勢にて衝
く引まもなり其挽也に志多かひ杉木ぬこと進
こ入ほんに挽まもなり又其の踊に前に材木ぬて
け重先キのこの挽終れハ其後ぬしなり是其
基に仕かけあり其とくく埋め重キ地底に其の機
轉ぬ設けしとて四まつかの人夫かるまらに

あまたく挽刻ある板ハ元片有又其ハいつけなと
設ハ上をなるめ此仕かけ右人力ハ費をはしく
牧牧の板頃刻の間に出来るなり
其仕道の工夫多勢の程合ハ多めし試ミ多る
に甚タ手間元再三試ミく仕直をし事牧
ケ度是ニ蒙ミ大造の費用ひハかけ遂に年
始し永世大ヽ利ハ設せらるとゝ
按ニヘトルフルカ政府国中第五拾六府ニ和業人サ
アモーシンスと記せるサーカ是据
なるモーシンスハ石ウスなるも手勢ニく
石ウス硬物しく抄木ハ据挽ハるなり

イルコしツカまくキセロフカ剣製セし
ものハ珂(コウ)人某是我ハ交けく擬セるこの
ならん

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM





先工夫は眾物象をして彼方の先迎土に来るあ
るし皆人某なるものゝ巧めるよし其妙巧
目物驚かし多く正しく其製巧ても望も
と望きたりしと其望彼方には前にあり度やけ一
度にてもキセロフの寂量遠大推しくなる
屈し莫大の費物いざしく彼物しく再三
精巧物乗就せし後来ふ是無窮の大利
物なし仍多望

按に先巧に似たるの云へ大西京畏圖説に云
書に密状せしこのあるを世に様智乃
人あるし彼と是と多へ考へこれ物起

きんと行るの方は生きは此國にも又かゝる
良使の奇器出つゝきてや 義賀 漂客
ホヽ對面の際に此記事に諸國は流
んと思ひよりしハ此説話をきけるに
發起せり夜ニ言才一ニ對する処の大
器は右ニ如く國ニ作らしめくを
る度とかし思但し其詳なる度は得
きる者遺恨と云るのゝ
止白里地方廣漢の地はとりて異なしハ多く
ハ流に変せし人ニは住ひしとなり此器は
多くニ出せしハ流人も夫等の中なり流し

イルコーツカ滞留せし日朝の方なる船人の
流刑なりとて三松人程才ホーツカの方へ引
まとひ行けるはしれり 後ノウクレしの辺分「才
ホーツカカミヤーツカしこの途徂の山路なと
そかなり完じよ志むるはそなりしや
按ニ此多人牧実は罪を犯せる船人のミは
いあるまし 何れとかいふ国と軍鉄しく
捨と志せる忘卒なとにてやあらん
井戸の剣 我国にかなる夏なしこなくそ
流つる屋は月出契多にハ川名はせふなり
婦人無脂はほそるものなり紙へはあるる

懷中 屏まゝ

イルコーツクの内一ヶ寺渡さん像の画をかけ
画せたる様にかけ多くなく此寺にあるものと同し

船中 并長崎滞留中に聞雑事

伏節 京船表通ニ尺十四巻ニ同ゆるかゝし

長三格又間餘　幅格式寫餘

二寸格寫餘　大様三格式寫餘

大きらん多經三寫　屋まゝ同し格三寫

帆板十八斤　石火矢三拾六挺

船に左右に鉛と石火矢拾四挺ともの乃乃
上に六挺又正上に小さ石火矢四挺自然に迫轉
ゆるゆるに仕つけかるゝ物なれば小なれども筒をさ
あとにさきに遠ゆるといふ石石火矢とも海上にて
海賊に向えなく思ふ処にて、筒を鉛を海へ
玉も其鉛へ亦なりも玉の重さ四匁目前後
なるへし

後ハ二段にしてしかるに鉄石の重サ司し
上と法馬にて五百かとと云字易に後鉄
下ゆといふ事なし

彼節居処ハ平生ハ二階目の望舗ニ相当ニ舗
程の処なれ時ニ分三階目へ志あかれ居れ其船の
方分左右と上とは皆硝子障子なれ日本へ
の鉄王物なれハ船の方へ持参船方ハこな表
の方ニ居り彼人ハ皆鉄屋へ居れ
水主ハ其ニ家ニハ多の巣の如く浮れ多る物の
内ニ夜中ハ卧しさまれ婦ニ居る格ニ志多る
ことのなれ
厨無也ハ其座洞ニて屋ニ上ニ經宮あれ
社ハ其中ニ有れ其屋あり家分出入ハ此れ
とも煮飯の事ハ閑く隠しなかしも外へ

火のちゞ思ふこと志ゆるものなり

食利限陰と同し九ツ時と晩と夜なり

食料ハ蒸饉臭（ホ増臭のかくえ）塩換剤蕎麦

畜蚕く物ハ家一三斗ニ糸拾八斗

雜二百斗（此ハ其ニ多く有る所ニ平向こゝにはあらずしてこゝ全ならず）

祝庶ハの屋鉄と石は蚕ハ其三へ飲料の

樽は茶へる度牧百なり樽の長サハ七人程所ハ

祝中ハ至つく大度ニ係し一日五人ニ而合

平均所ハとるなり居見て居かしも服へ飛

ちゞ思ふこと志ゆる物元ま水主様ハ茶餅所の

如きこものまく新物も流ひし一なり右所樽

のくハ食物ある拵諸しくあ
端船ハ五艘入る
帆ハ麻にて織たるものとのるへかける帆ハ
何程も軽よとよし其甚細なる絹用ゆ
舵ハ外かハらへ出るに自在たく
本船の名ハゼンダと云静謐た平
あるし表する名のまふと覚たる
乗組の人ハ役人水主八百
十人れども見えしハ
アメリカのヨルロニコライのバイトルイテのサノット
是ハ其節の使節成魯西亜人

ニヨル官　三人

足ハ使節ニ添役カ内ニ職ナリ之絶其傍ニ付

居る此内ニ足照の次ニ申しとむ

其一　ヤルニノ　カルライ　ライハの人

其二　ミイトル　イメノイチ　ヲロシヤア人

此人ハカニシヤーツカ分の里の此地代なの才之

其三　イツレ　イロシニノイチ　同

足ハ足照及カベタンなる古日処分入船

其一　タベタン　二人　船及ベーホローチクの名之

其二　イワン　ヒヨーメロイチ　同

此人ハ御船分船をのまるひ[illegible]もこ七ヶ年船

つせしとなり蒼朱のうるはしくなる浪花也し
とせこれ御道をアンケリ名なりとなく名譽の
人まく先年世界のまゐし始こゝ年月
ま御国也しと云ハ船もこゝ遠をかへしとなり
姓名忘れなり ヒヨー タロイチハ此度カナリ
ツケヘ御ゝ来れなりと申
其二 ニカル イワノイチ ヲロシイア人
小船頭三人
是ハ一件計なりとなれ且つ海之ゝ星段を
測る是ハ京をかかし引あけ算用し
く是ハ志ゝ誘子なり

其一　イワン　ヘロフイチ　同

其二　ツシライツシライイチ　同

其三　名ふ覚。

下案計役　三人ニ雑計　此ハ名ニ役

其一　ヤルマン　ヤルマンイチ　子イメツ人

其二　ベトロ　トロヘムイチ　ハロシイア人

携ハ来ましゝ世界図を長崎帰留中ニ見かけ
ミ曰各ニ通船の居節ハ覚ヘ多里居と家ニ
た着しハ牧子万里の文文ニふ覚といひ乳
ハ上陸場里の後人ニ影る度ハ見しも当惑に
負しとく海路ハ乗引しし与へ多里此万

岡岡ハ彼頭ニ〳〵銀口枝ニ〳〵[illegible]

其三　名遺忘

医者　三人

ドクトル　二人

是ハ位度ある一医師なり即度節之一医師之

ランツフ　イフンゲン　一　[illegible]　七人ハダンツケトモ

のも組

此人諸国ニ言語ニ通ニ此者ニ者御ニ〳〵も常ニ

通弁ニ通も知ニし[illegible]

吉人　名不覚

[illegible]　吉人　外郷　是ハ位早キ医師之

吉人　名不覚

コツブ　二人　兄弟なり

兄　十五歳　医業なり

弟　伝兼　方針等のみなり

此人　北面童なりコツブ　くゝ　[illegible]

画師　二人

五人　名ふ[illegible]　タンツケ　[illegible]

五人　同　ヲロシイフ人

此人　祝中分病事まくカミシヤーツカよりも上

陸後肥病石（カミシ）のお来ゆる病を当りり

草木鳥獣を吟味する役人　生田ふ永

此人右画師病者之療治を拘る為附添カミ

シヤツカよりも上陸

右之代ヲ立人名ニ覚

該袍指南人　立人名ニ覚

此人所主ニ向ヘ該袍ニ持方ホ教しヘ足

恒代ヲ持つとめを以る積ヲ立て伴ひ一乗ヲし

ク情弱ニて我倍向し船ヲ仮節ニ命ス

省く度あるし故カミシヤーツカよりも上陸を

也依て家ニカミシヤーツカ分足恒ニ入る

足恒六人

カミシヤーツカ分八船

ニタヒス　所主也　教ヲ人名一ニ覚　此人終家

紅毛ニ諸国ニ産ハ有之中韃靼人ハ多力
量ニ而ハ勝れ多モ有之所ハ人素ナ之人袖ニ之人
居る此外王之内ニ而ハ加ハ称する杯ハ向論又皆
從仕之物其外大工職之者の妻をも兼称居之
掛ニ右人ニの性名かなにて書遣候へ共ちがひ
も有之候ニ付未詳と云ニ性名年齢
の調ひ書添ハ有之候とも又傳写のあやまり
みえよし候なり

環海異聞巻之拾五　大尾

左之一條環海異聞之年久ニハあらねとも好事のごとの人ノ秘蔵せる所ニ依て

魯西亜分日本諸上行程方角

一 歐羅巴洲内ハスコヒヤ魯西亜都ヘートルフルカ（大王名）

舩出申酉針立テ子ニ申カヘ五百里夫より

同計ニテアンギリヘ六百里夫より未申ヘ針

出し亜弗利加洲の内カナリヤ島ヘ二千里夫

より同計ニし南亜墨利加洲の程ブラシリイン

ヘ三千里此國食人国と云人死ル時一彩集り焼食

見ル食葬と云此処 五午未ヘ針出し

南亜墨利加洲南端ヘ[illegible]戌[illegible]針直シニル

ケツカ島ヘ四千里ニ同金ニシテ亞シアヤの内
加漠斯葛杜加ヘニ一星夫ヨリ酉方ヘ針ニ
ーー日本ヘ千里ニ都ニ一萬四千里ニ
此ニ星の殺日本ニ星半斗ヨリ急ニ西亞人グル
ーーラセンステル 茶ニ 漂流人真州仙基石ニ巻湊
岩宮丸船灰佐ニ衝ヨリ北水先ニ被聞置処也
文化元年甲子九月七日長崎汝来日本ヘ侯節
役人カーームルニコライーメレサノツト船灰グルー
ラセンステル其節の御奉行

肥田豊芳守
朱瀬岡幡守

大通辞

名村吉太郎

石橋助右衛門

牟木荘右衛門

小通辞

今村金之術

猶林彦四郎

右北水先生其長崎陽逼留中ニ

見聞処是著

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM